

ISO/TC138(流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類)年次国際会議

1. はじめに

ISO/TC138は、流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類に関する規格の制定・改正を担当している。2021年1月19日時点で、合計330の規格が発行され、63の規格開発プロジェクトが進行中である。TC138は、日本が幹事国として、イニシアチブをとって活動中であり、正式メンバー(Pメンバー)は40カ国、オブザーバーメンバー(Oメンバー)は34カ国と、規模的にはISOの中でも比較的大きなTCである。

2. TC138の活動状況

TC138傘下には8つのSCがあり、TC及び各SCの傘下には、おのおのWGなど、合計33の作業グループがある。SC1～SC7は、管の用途、試験方法、材料、周辺器具などに区分され、SC8は、2013年に設立された、配管系の更生を扱うSCであり、日本が幹事国となって活動中である。第1表にその構成を示す。

第1表 ISO/TC138の構成 (2021年1月19日現在)

セクション(幹事国)	名称
TC138(日本)	流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類
SC1(フランス)	下水、排水、雨水用プラスチック管・継手 (農業用を含む)
SC2(スイス)	給水用プラスチック管・継手
SC3(イタリア)	工業用プラスチック管・継手
SC4(オランダ)	ガス燃料供給用プラスチック管・継手
SC5(オランダ)	プラスチック管・継手及びバルブと付属品の 一般特性 一試験方法と基本仕様一
SC6(オーストリア)	強化プラスチック管・継手
SC7(イタリア)	プラスチックバルブと付属品
SC8(日本)	配管系の更生

TC138では、各SC、WGが、それぞれの専門分野で規格を開発しており、2020年には、合計28件の新規規格が発行された。また、2020年のTC138における国際投票は、規格見直し投票とコミティー内投票を除いた、規格開発のための投票数が52件であった。

3. 2020年のTC138年次国際会議

TC138の年次国際会議は、2020年10月に、アラブ首長国連邦のアブダビで開催の予定であったが、COVID-19の影響で対面開催が中止され、2020年9月～11月にかけて、SC2及びSC4を除く6つのSC会議、各SC傘下の27のWG会議がWebで開催された(複数回開催も含む)。2020年のTC138及び関連SC、WG会議への日本からの出席者は19名で、Web会議のため、出張なしでの参加が可能であったこともあり、例年より多い参加者となった。各SC及びWGの会議では、各々の分野のエキスパートが、時差を超えて早朝から深夜に渡って世界中から参加し、主として規格開発に関する討議と決議承認を実施した。TC138全体会議は、2020年10月30日にWebで開催され、幹事国である日本が全体を取りまとめ、26か国から合計56名が参加して討議を実施した。TC138全体会議では、TC138全体に係る事項の報告、各SC会議での討議内容及びSC決議事項の報告、TC138としての各種取進め事項につき討議された。今年のTC138全体会議においての決議事項はなかったが、会議で討議された事項に関する、会議後のコミティー内投票により、合計2つの決議事項が承認された。

4. トピックス

(1) 日本提案の規格

日本提案の規格としては、TC138/SC3/WG8の「ガラス短繊維強化ポリエチレン管システム 第1, 2, 3, 5部」と、TC138/SC8/WG2の「非加圧地下排水及び下水網の修復用プラスチック配管システム 第9部：堅く固定されたプラスチック内層を有するライニング」の、合計5件があり、それぞれのWG会議で内容詳細が討議され、次段階に向けての開発が進捗した。

(2) TC138及び関連SCの議長

2020年は、TC138の藤井重樹議長が9年の任期を全うして退任の予定で、後任は、栗田享氏がISOの技術管理評議会(TMB)より、2021年からの次期議長として任命されている。また、2020年末でSC7のMr. Oleg Clericuzio 議長(イタリア)が任期終了となるが、さらに3年の再任が決定した。

5. 今後のTC138年次国際会議の開催予定

2021年のTC138年次国際会議は、2021年10月24日(日)～28日(木)に、2020年に開催できなかった、アラブ首長国連邦のアブダビで開催される予定である。2022年は、候補国としてフランスが会議開催の意向を示している。

(以上)